

📖 シリーズ「きょうだいの思い」⑥

『親友』

四年生の時に、弟の事を書いた作文が学年で発表された経緯もあって、学年中に私の名前と弟の存在は知れ渡っていた。

六年生で初めて同じクラスになった女の子が、唐突に聞いてきた。

「〇〇の弟って手話するん？」 「えっ？シュワ？」

弟の事はすでに知っているが、どうやら「喋れない＝手話」で意思疎通をするのかと思ってたらしい。

弟の事をストレートに尋ねられたことが嬉しかったし、私もオープンになれた。彼女は、ごくごく自然に弟と接してくれた。弟が、私の友達の名前を初めて覚えた。以後、彼女とは途切れることなく四半世紀以上の親友である。

弟の悩みは何でも相談できたし、彼女は彼女の目線で私を支えてくれた。

私が結婚する際に、こんな手紙をくれた。

「あなたと弟と毎日一緒に遊んだおかげで、彼(障がい者)と同じ世界にすることが、ごく自然なことなんだと気づかせてもらえた。この事は自分の子供たちにも必ず伝えていきたいと思う。」この言葉は、私が彼女に出会えた事と、彼女が私と弟に出会えた事が、確かな意味があったのだと思えて嬉しかった。

何年か前に、高槻へ帰省していた彼女が、ヘルパーさんと外出中の弟に出会ったらしい。

「すごい満員の市バスの中で、ちょっと声が聞こえるから知的障がいのある人が乗ってるんやなーと思ってたら、なんと弟やってん！嬉しくて、JR高槻で降りた途端に追いかけて声かけたよ！私の名前も覚えてくれてた！」とメールが送られてきた。

弟は、自分を好意的に受け入れてくれる人を肌で感じてわかっている。そんな人の名前は、何年・何十年経ってもちゃんとインプットされている。他人に興味がなさそうで一見ドライな自閉症は、本当は相手をちゃんと見抜いている。

前穂通信

まえほほん
つうしん

発行日

2011年7月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600

! ショートステイからのお伺い

日頃はショートステイをご利用頂き、真にありがとうございます。

皆様のご利用のおかげで厳しい環境の中ですが、ショートステイ事業を継続できてきました。

ついてはお願いがございます。前穂では、歯ブラシ・ひげそり・おむつ・生理用品等はゲストにご持参して頂くのを基本としております。しかし、万一のお忘れにそなえて、簡易品ですが、備品としてもご用意しております。

年間で見ますと補充品の購入費は相当なものになります。そこで、今後はそれらを使用させて頂いた場合は、費用を頂戴できないでしょうか？

実施の可否については皆様のご意見をうかがったうえで検討してゆきたいと考えています。お声をお待ち申し上げます。

※制度上、生活介護事業ではおむつは報酬額に含まれていますが、ショートステイではご本人負担品とされています。

🏠 改修工事完了の報告



6月1日～3日にかけて改修工事を致しました。

1. 出入り口をサッシ戸に致しました。
ガラスではなく、ポリカーボネイト製にしましたので、万一にも割れる心配がなくなりました。
2. 陶芸室にエアコンを設置致しました。
暑さ寒さに影響されずに、取り組んで頂けると思います。